

よぬだ ところどころ



第三一号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

白山神社のヒヅメ岩

白山神社参道横にある岩と伝承



れば、上流からの堆砂、あるいは洪水による流失、もしそれが岩盤に刻まれたものとするれば、ポットホルの可能性もあり、洪水による埋積ということも考えられる。

白山神社の参道にある写真の石の上から、「神様が馬に乗って、木曾川をめぐって飛んだ」という、従って、その馬の足跡が石の上に残されたのだという。神様が飛んだ先は、「木曾川のご番所の瀬」のかかり口の岩で、着陸した岩にも馬のヒヅメ跡がのこっていたという。ただし、「この岩は船頭が筏で運んでいく途中沈んでしまったという」この「ご番所」をどのように考えるかである。左図は、下米田・牧野の十字全図である。白山神社のある「宮前」から、飛んだ先は「小瀬」である。小瀬はその名の通り、木曾川が瀬になっている場所で、ここに江戸時代に「御番所」があったという。木曾川筋の運材の見張り所というものであるが、江戸以前にこのような施設があったのかどうか疑問である。小瀬の上流には「下屋」という地名があるが、これは金山の殿様の下屋敷があったとされ、この金山の殿様を「森家」とみればどのような解釈ができるであろうか。戦国時代にご番所はないので、このお話は江戸期以降につくられたお話ということになる。江戸期は新田の開発が盛んにおこなわれているが、宮前の水を新田に流す象徴として「馬が飛んだ」という表現をしたのではないかと推察される。そして、最後に「この岩は船頭が筏で運んでいく途中沈んでしまったという」という結末は、筏で石を運んだのかということが現実的でないことを考えたのかということも考えられる。